



松枝 治幸 議員

《一般質問》

問 やる気を喚起する成果主義の導入予定は？
答 成果主義に反対はしないが、精査し取り組む！

町長 成果主義の導入は、行政サービスに対する要求が複雑化、高度化し、公務員にこれ以上の質の高い能力とモチベーションが求められている中で、組織全体の士気高揚を促すとともに、個々の職員のやる気・動機づ

問 町民に対して効率的な質の高い行政サービスの提供のために成果主義を導入(年功序列ではない、能力および実績本位の給与体系、能力本位の任用制度の確立)すべきでないか？

総務課長 大刀洗町では、本年度より本格導入、筑前町、広川町で試行中、東峰村で未導入。大刀洗町では、職員に必要とされる能力、勤務態度、業績について公平な評価を行い、その評価結果を職員の人材育成や処遇に反映させることによって、町役場組織全体の士気高揚を促すとともに、個々の職員のやる気を増進させ、公務の能率向上を図り、ひいては住民サービスの向上に寄与することを目的としている。

問 近隣町村の人事評価システム導入状況と目的は？

総務課長 大木町の現シス

問 仮に高校卒業後の採用で32年間S評価者の2者の年収の違いをモデルケースとして、現システムの場合の年収差額は？

けの増進、分権時代を担う職員の広い意味での人材育成や公務の能率の向上につながることを目的としたものであり、客観性、透明性の高い人事評価システムを構築し、適正に評価を行い、その評価結果を活用しなければならぬと考えている。

しかし、公務員の場合、長期的な視点で取り組むことが適当な業務や成果が明確にならない業務もあり、年度ごとに評価したり、処遇に差をつけたりすると、職員が評価を気にする余りに自発的なモチベーションが生まれてくくなるとともに、不満や不公平感が広がり、全体のモラル・ダウン(注1)にもつながる危険性がある。もちろん、私自身が職員のやる気を引き出すシステムを構築するというマネジメント力を身につけることが最も大切であり、実現に向けて努力したいと考えている。現在でも、課長昇格については、年功序列ではない。

問 職員は優秀な若手がたたかず、伸ばしてほしいと思う一方で、責任がなく安い給料で出世しなくてもよいと思っている職員も存在することを理解してほしい。また、やってもやらなくても一緒や出世しないほうが楽であるとの不平不満を無くすため、さらに給与の適正化問題を無くすためにも成果主義を取り入れた人事評価システムの導入の検討を願う。

町長 提案の件、精査をし、なるべく早い段階に人事評価制度の導入と職員のモチベーションを高める施策と併せて取り組む。

テムに置きかえて、32年間50歳までその間ずっとS評価者と32年間ずっとC評価者について年収額を試算すると、S評価者は定期昇給を4号級、40歳で係長に昇格した者とし、C評価者は定期昇給を2号級とし、係長に昇格しなかった者と仮定した場合、50歳時点で給料及び期末勤勉手当の合計はS評価者は年収額626万円、32年間Cの被評価者は年収額540万円となり、86万円の年収額の差となる。

問 東日本大震災の復興財源を捻出するため国家公務員の給与を削減した結果、地方公務員の給与水準が国家公務員に比べて相対的に高どまりする中、財務省からの給与削減の指導に対する町長の考えは？

町長 役場職員の給与改定については、人事院及び福岡県人事委員会の給与勧告を踏まえ、議会の議決を求め実施している。労働基本権制約の代償措置である人事院勧告は、その時々々の民間給与の情勢を国家公務員給与に反映させる仕組みとなっており、今回の件も、人事院及び福岡県人事委員会の勧告を尊重する。

たまちゃんのアポイント
注1..モラルとは、従業員の士気、モチベーションのこと。倫理観や道徳観を意味する「モラル」とは区別される。
注2..人事評価の評価基準のことで一般的には、S評価は期待を大きく上回った、A評価は期待以上、B評価は期待通り(標準)、C評価は期待を下回った、D評価は期待を大きく下回った、とされる。

先進地に学ぶ 行政視察研修レポート10月23日・24日

総務建設産業常任委員会

研修テーマ① 平成21年の土砂災害による犠牲者を出した防府市の防災への取り組み

平成21年7月21日中国・九州北部豪雨が発生し、土石流によって14名もの犠牲者をだした要援護者施設「ライフケア高砂」の土石流に埋まったテレビ映像が脳裏に浮かぶ人も多いかと思います。被災を受けた防府市は早速、土砂災害による犠牲者をゼロにする取り組みを実施しました。

わか町も先日(平成24年7月14日)北部九州豪雨災害を経験したばかりであり先進地の取り組みは、大木町の新たな地域防災計画づくりに反映できるものと確信しました。

防府市視察後の感想は、国や県市町村の対応や救助(公助)には限界がある。自分の身を自分で守る(自助)と、自分たちの地域は自分たちで守る自主防災組織や防災活動の組織化(共助)の必要性を痛感しました。

研修テーマ② 治水対策として公園の地下に調整池を構築した北九州市小倉北区の視察

北九州市は、平成6年度の治水計画見直しに伴う神嶽(かんたけ)川の改修計画の中で下流部の稼働幅が困難なことから計画流量増に対応できる施設として地下調整池を計画し、平成17年度から供用開始している。

治水対策事業の一つの手段として都市部では採用が増えている地下調整池である。

今後、大木町においても花宗川の改修事業にも一部参考になる施設であった。

河川改修概要/流域面積:8.7km²、計画規模:1/50(63mm/hr)、

計画高水流量:65m³/s、事業費146億円

調整施設概要/場 所:三萩野運動公園下、

施設面積:15,600m²(内空高5.3m)、

調整要量:57,000m³



地下調整池の流入口のようす

文教厚生常任委員会 視察研修報告

研修テーマ① 災害時における社会福祉協議会の果たすべき役割

被災当初は土砂崩れや通行止め渋滞により被災状況の情報が的確に寄せられなかった。しかし、12日の15時までには各所の状況を把握して、県社協等の協力もあり、災害ボランティアセンター設置の要請があった。

13日には、竹田市総合運動公園を設置場所とする「災害ボランティアセンター」を設置することを決定しセンターの体制やボランティアの受入準備並びに要請(ニーズ)受付を14日13時より開始することを決め15日8時にはセンターを開所。迅速な対応により、実質14日間のセンター運営により個人被災者の生活再建がスムーズに進行。これは、阪神淡路大震災から東日本大震災等、様々な災害に社協職員の方がボランティアとして参加されその経験が非常に役立ったとのこと。大木町においてもいつ起こるかわからない豪雨災害に対しては社協・行政・地域一丸となった対応が求められていることを改めて実感した。



視察の様子

研修テーマ② 古賀市健康文化施設クロスパルこが

この施設は、市民の健康づくり、生涯スポーツ及び文化の振興を図り、健やかな地域社会づくりの実現を目的とされる施設。さらに特筆すべきは、青柳小学校のプールの老朽化により平成20年より水泳授業を受託している点である。実施の時期は6、7、8月の3か月間であり、1学年あたり8~9回の利用状況。プールまでの移動は貸し切りバスであり、移動時間は5分程度である。大木町においても各小中学校のプールは老朽化しており、学校毎に建て替えをするべきか、アクア温泉を利活用した、地域の皆さんも利用できる総合型の温水プールを作るべきではないかと研究を重ねている。